

令和7年度 第3回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月23日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井 弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子  
中川 智博、紙上 理恵、高田 あゆみ
- 4 欠席委員 清水 裕人、石坂 紀子
- 5 オブザーバー 鈴木 皓介（高台協働センター）、井村（青少年の家 代理）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、古橋 麻紀子（教頭）、今井 省吾（生徒指導主任）  
田村 静（CSディレクター）
- 7 教育委員会 なし
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 田村 静
- 10 議長の選出  
古橋教頭より議長の選出について意見を求めたところ、岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。
- 11 協議事項  
(1)「やさしさ」を形にするために  
①城北小学校いじめ防止基本方針について  
②取組状況と自己評価  
・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況  
・職員による自己評価（中間期）  
(2) 学校が抱える課題と改善策  
(3)「やさしさ」を形にするために（6年生児童による「城北探求」の委員会活動の経過報告）
- 12 会議記録  
委員総数9名のうち7名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告が古橋教頭よりあった。  
(3)「やさしさ」を形にするために（6年生児童による「城北探求」の委員会活動の経過報告）  
杉浦教諭と6年生の委員会代表者より、委員会活動の経過報告があり、委員からは以下の発言があった。  
・自分が行った素晴らしいことは、口に出すと更に進化できる。（中川智博委員）  
・難しいこと、大変で出来そうもない大きなことに果敢にチャレンジして欲しい。くじけや挫折、立ち直りの経験が積み立てとなり、自身の成長に繋がるので、頑張ってもらいたい。（川嶋副会長）  
  
(1)「やさしさ」を形にするために  
① 城北小学校いじめ防止基本方針について  
② 取組状況と自己評価  
・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況  
・職員による自己評価（中間期）  
今井生徒指導主任より説明があり、委員からは以下の発言があった。  
・実際にどんないじめが確認されているか。（川嶋副会長）

→特に多いのが、ひやかしや悪口。被害児童が嫌だと思うことは全ていじめとして認知している。(今井生徒指導主任)

・子供たちが物を言わなくなってしまうのではないかとこの怖さがある。注意をして終わりではなく、そのような場面に直面した際の対応能力を教えられると良い。(川嶋副会長)

→いじめだと認識した場合は、校長教頭以下、複数人で状況把握をして対応を検討する。解決後も定期的に会議を開き、継続的に対応を確認する。子どもたちとの対話を通して、これからどうしたいかを子ども自身に決めさせるよう心掛けています。保護者の理解と協力もあり、子どもベースで対応出来ている。(校長)

・いじめに対処して火を消すと同時に教育活動において、折れない強い心を育み、いじめの件数や重要度の減少を目指しているように認識した。(中川智博委員)

・子どもの行動や特性を把握して、早期発見・早期対応が出来ている。教員が子どものことをもっと知ろうと見つけているので、信頼が生まれる。(岩井会長)

・いじめが起こらない人間関係を構築することは難しい。(川嶋副会長)

・教室が荒れないことが大切。教員が子どもたちにしっかり関わり、子どもたちから目を離さないようにする。先生が見てくれていると極端ないじめに繋がらない。(高柳委員)

・教員の心の安定が大切。心が安定している人間しか指導は出来ない。(中川智博委員)

・今は教員に対するハードルが高い。もう少し世の中や保護者が寛容になっても良いと思う。(高柳委員)

## (2) 学校が抱える課題と改善策

・朝の登校時に横断歩道で車が止まらない。子どもたちが手を挙げると止まる。道路を渡りたいときは、主体的に自分の意思を表す。旗振りはいくまで補助。(中川智博委員)

→登校時の旗振りや見守りは人数的に集まりが悪く、厳しいところがある。横断歩道や道路を渡るときは、手を挙げて意思表示をすることを交通安全教室等で継続的に子どもたちに指導していきたい。(教頭)

・手を挙げることは、自分の身を守る手段。大人も意思表示をして道路を渡ると良い。(川嶋副会長)

→あいさつや交通安全も教育活動の一つとして教員が指導しなければならない。子ども任せにするのではなく、教員から声を掛ける等、C(Check)からA(Action)へと繋げていきたい。(校長)

・あいさつは強制するものではなく、返ってきたらラッキーと思うくらいで良い。少しずつあいさつを返してくれる子が増えた。繰り返していかないと。(中川勝夫委員)

・基本的にあいさつは、自分が気持ちよくなる為の掛け声。言い返して欲しいと見返りを求めると、いじめに繋がる。(川嶋副会長)

・今は知らない人には挨拶をしないという風潮がある。顔見知りになったら、子どもたちは声を掛けてくれる。(紙上委員)

## (3) 「やさしさ」を形にするために

・3つの委員の紹介を聞いてどんなことを感じたか。(岩井会長)

・園芸委員のプラカード作りは、花壇が華やかになって良いと思った。(高柳委員)

・サポーターの方々が、自らやりたい時間に花壇で除草作業に携わってくれる。その姿をみた子どもたちが生き生きと取り組んでいけるので、良いサイクルだと思う。(紙上委員)

・仕方なくではなく、好きでやっているその姿に子どもたちは惹かれていく。(川嶋副会長)

→委員会活動においても、現代の日本の縮図、世相を表しており、子どもたちが自ら体を使って運動場や花壇を綺麗にするのではなく、効率を求めてポスター作りから始める傾向にある。そこを指導する教員がどのように仕掛けて子どもたちに気付かせていくか。物事をうまく運ぶのではなく、失敗と気づきを通して

楽しみながら学んでいけると良い。(校長)

- ・今は解説しないと分からないので、分担を割り切ることも大切。(岩井会長)
- ・子どもたちは柔軟なので、声の掛け方次第で自ら考えていける。(高柳委員)
- ・体験すると理解習得が早い。調査し情報収集する能力は、探求学習の学びの基本である。その学び方を教えている点は素晴らしい。型に入れずに取り組んで欲しい。(岩井会長)
- ・興味がそれぞれ違う中で、全員が主体性を持つことは難しい。(高柳委員)
- ・一括で取り組む課題ではなく、その子の適正化を目指す。子どもによっては細かく指導しなければならない場合もある。(岩井会長)

→子どもの主体性をどう発揮すれば良いかを考えながら、丁寧に授業を行っている。皆が一定の主体性を発揮しなければならないという訳でなく、1人1人の主体性をどう伸ばすか。探求の方法と同じで、主体的になるにはどのような方法があるのかを教えていく。ゴール(つけたい力と活動)の見通しを持たせると、やる気が芽生えやすい。自己のレベルに合った課題を自ら選択するという自己決定において、更に主体性が育つ。(校長)

- ・教職員に求められていることは、子どもを元気にする力。子どもと教員の間で防波堤のようなものが教育であり、教育活動の一環かもしれない。(中川智博委員)
- ・学ぶことは楽しいことだと思える子どもたちを育てて欲しい。(岩井会長)
- ・学校生活において、何か楽しいことや輝くことがあれば、学校が楽しい場所になる。頑張りぬく力、乗り越えていく力や生きる力をどうつけていくか。(高柳委員)

→城北小の教員は、こちらが思っている以上に授業を変えてくれているので、手ごたえはある。一方子どもたちに劇的な変化はまだ感じられない。(校長)

- ・子どものことを認めて自己肯定感を育む。自信を与えて学び方を見つけることを個々に応じて伸ばしていけば、主体性を確立する可能性が高い。そのような子が増えれば、また変わっていくと思う。(岩井会長)

#### その他報告事項等

##### (1) 学校支援CDから

- ① 7月～9月の城北小サポーター活動実施報告
- ② 12月に行う「学校整備ボランティア活動」について

##### (2) 中川智博委員から夏休みの居場所作りについての実施報告

#### その他連絡事項等

##### (1) 学校運営協議会自己評価実施について

次回の運営協議会は、令和8年2月5日(木)14時30分～16時00分に城北小学校会議室で行う。